

# 豊小だより

笑顔いっぱい！  
やる気いっぱい！  
友だちいっぱい！



「目標を持ち、最後まであきらめず挑戦し、しっかりと力をつける2学期に！！」

夏休みを終え、子どもたちの笑顔と元気な声が校舎に戻ってきました。無事に2学期を迎えられたことは何よりうれしいことです。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。新型コロナウイルス感染症の第7波、気温35℃を超える猛暑、大雨による土砂災害、高校野球での近江高校旋風など、様々なことのあった夏休み期間でした。本日から2学期の始業となりますが、感染症対策をしながら学習活動に取り組みます。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い致します。さて、2学期始業式では、次のことについて話をしました。ご家庭でもお話いただくと幸いです。

豊郷小学校は来年に創立150周年を迎えます。今日は「テツと白い学校」という絵本をもとにお話しします。

村人たちは、夜明けと共に起き、毎日一生懸命に働きます。決して裕福ではありませんが、助け合いながら仲よく暮らしていました。そんな小さな村にテツという名前の男の子がいました。テツは、勉強がよくできたので、小学校を卒業した後も、もっと勉強がしたいと思っていました。しかし、六人兄弟でもあり家が貧しかったので、上の学校に進まず、大阪で商売をしているおじさんのもとにお手伝いに行きました。おじさんの家に住み込み、一生懸命に働きました。手伝いをしながら、学校にも通わせてもらいました。テツは、そのおじさんから、大切なことをたくさん学びました。「街へ出て、商売に成功しても、ふるさとのことを忘れちゃいかんよ。ふるさとお世話になったのだから、大人になったら恩返しをしろ。」いつのまにか、テツは会社を任されるようになりました。月日がたち経営者になったテツは、会社を世界に広めるために、たくさんの国を見に行きました。外国の建物は、どれも見たこともないほど大きくて立派でした。案内してくれた外国人は言いました。「この建物は、私の会社がみんなのために建てた病院です。みんなが幸せになるために建てたのです。」テツはとても感心し、ふるさとの村のために新しい学校を建てることを考えました。「立派な人間を育てるには、大きくてどっしりした学校が必要だ。私は、満足のいく教育を受けることが出来なかったけれど、ふるさとの子どもたちには、いっぱい勉強させてあげたい。真っ白な学校がいい。世界で一番美しい学校をこの村に作るのだ。」テツは自分が貯めたお金のほとんどを学校づくりに使いました。そうして村人みんなで学校づくりが始まりました。

<中略>

学校はついに完成しました。それは、真っ白に輝く、白亜の殿堂でした。その学校とは、豊郷小学校です。テツは古川鉄治郎さんといいます。校舎が完成した日の挨拶の中で古川さんは集まった人びとに向けてこう言いました。「この学校から優秀な子が育ち、みんなのために働き、このふるさとがずっと平和であることを心から願っています。」今日から、二学期が始まります。先人たちの思いを引継ぎ、「目標を持ち、最後まであきらめずに挑戦し、しっかりと力をつける二学期」にしてください。

豊郷小学校長 中野 泰弘

## 夏休みわくわく学習会



7月25日(月)、8月2日(火)、8月23日(火)の3日間実施をいたしました。自分のペースに合わせて、国語や算数のプリントに取り組み復習をしたり、いつもよりも難しい問題にチャレンジしたりしました。大学生や地域ボランティアの方に、学習活動をサポートしていただき、休み時間には、子どもたちから話しかけたり、一緒に遊んだりする姿も見られました。今年度から新しい取組として「なかよしセレクト学習」を実施しました。上学年と下学年に分け、学年の垣根を取り払い、興味のある活動に取り組む学習です。

下学年は、①ミュージシャン②プラパン③スライム④紙ひこうき。上学年は、①着衣泳②実験③せっけん④糸のこ⑤消しハン等のわくわく学習を楽しみました。「夏休みならではの」「わくわく学習」となりました。